



ホタル前線 北上す

蛍火が照らす 美しき日本

(スーパーハイビジョン撮影)

8月30日(水) 午後7:30~ 8:59 <BSプレミアム>

春を告げる「桜前線」、秋を伝える「紅葉前線」。日本列島を南北に駆け抜ける季節の知らせには深い趣がある。その中で、一般的にほとんど知られていないのが「ホタル前線」だ。4月下旬・鹿児島で光を発し、8月上旬、北海道で最期の明滅を見せる。前線は、およそ3か月に渡って日本列島を北上し各地に夏の訪れを告げる。日本のホタルのすみかは、澄み切った清流や美しい水田。そこには、里山に代表される「日本の原風景」が広がり、またホタルと共に暮らし、ホタルを守ろうとする人々の営みがある。ホタルは同時に、「文化昆虫」とも称される存在で、古くは「日本書紀」に登場し、万葉の歌に詠まれ、源氏物語をはじめとするあまたの文学作品に登場、蛍狩りという習慣も生まれた。ホタルは日本の文化を美しく照らしだしてきたのだ。

こうしたホタルの魅力にひかれているのが、写真家の小原 玲氏(56歳)。小原さんは、かつて中国で起きた「天安門事件」を始めアフリカ難民などを取材する報道カメラマンだったが、人間の醜さに嫌気がさし、動物や自然に目を向けるようになる。その後、ホタルに魅せられ、夜間の高感度撮影の腕を磨き、美しい写真や動画を世に送り出してきた。



©小原玲



今回の番組では小原カメラマンとともに列島を北上、ホタルが群舞する美しい光景やホタルを愛する各地の人々の営みを切り取っていく。また女優の富田靖子さんがナビゲーターとなり、日本人とホタルの関係を見つめていく。ロケは、スーパーハイビジョンでの撮影。夜間、かすかなホタルの光を高精細の映像でどこまで表現できるのか、技術面でもチャレンジします。

